

<つながりアクションチーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習態度は良好で、課題に対し熱心に取り組むことができる。また、礼儀正しく落ち着いた態度で生活をしている。急速に発展した新興住宅地であり、地域住民や保護者は他県や他地域出身の割合が高く、育成会や地域の伝統的な行事が少ないため、小中学生同士や地域とのつながりが薄い。

【部会のねらい】

小中の交流活動を通して、ふるさとの良さを知り、地域や様々な世代とのつながりを感じ、愛着を育てる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	子ども未来プロジェクト	小中合同クリーン活動	小中あいさつ運動 小中音楽交流	小中学生同士や地域 住民とのつながりがも てる企画
成果	・夏休みに行った子ども未来プロジェクト小中交流会議で話し合った内容を、11月の下野市いじめ防止強調月間につなげることができて良かった。また、代表委員で話し合った内容が活かされ、小学生にとっても良い刺激になった。考えを共有する機会として有意義なものになった。	・中学生が中心となりながら、小学生と協力してクリーン活動を行うことができた。昨年度から実施したクリーン活動前のレクリエーションや今年度から実施した小グループでのクリーン活動も効果的だった。楽しそうに活動する姿が印象的だった。	・実施時期と回数を厳選し、ねらいを明確にすることで良い雰囲気での交流することができた。小中音楽交流に関しても、中学校の合唱を聴くことで、小学生にも、良い刺激になっていた。	・祇園小では、ゲストティーチャーやボランティアが活躍し、緑小では、わんパト(見守り)や、みどRingフェス、花育(保護者と花植)を行い、二中では、文化祭(地域からの来校者多数)など、多くの地域の方々と交わる機会があった。
課題	・小中交流は、小学校6年生を対象としたものなので、下級生にも活動内容や活躍している場面がわかるコーナーを校内に設置すると良いという意見が出た。また、小中交流で話し合った内容を、各学校の教職員にいかに伝えていくかが今後の課題だと感じた。	・班によって、児童・生徒・教員のだれが主体になってやるのか、掲示板ではなく、担当の先生ごとに話し合うことができれば良いという意見があった。来年度はクリーン活動実施日のすぐ前に小中一貫の日が設定される予定なので、その研修の最初に担当教員同士で顔合わせを行いたい。	・交流をもう少し行いたいという意見が出た。例えば、小中音楽交流では、合唱を聴くだけでなく、事前にオンラインで告知するなど、行事としての生徒の気持ちの高まりをもたせたい。	・外部の方と協力して行事を行う際は、担当者が連絡を密にとりながら実施する必要があるという意見があった。また、地域の方々と関わる対象に限られることもあるので、多くの児童生徒が地域と関わる機会をもたせたい。



子ども未来プロジェクト会議(R6.7)



小中合同クリーン活動(R6.11)



あいさつ運動(R6.5.7.10)



夏椿祭(R6.10)

